

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2011(平成23)年10月15日 第457号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
毎月15日発行



今月の主な紙面

- (1面) ●テラーメイドの人間ドック目指して
第52回日本人間ドック学会学術大会
- (2・3面(見開き))
●連載 備えあれば憂いなし 第2回
●話題 「生活習慣病予防を指導するなら、
睡眠を考えると」
第12回保健指導力 プラスワンセミナーより
●連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
働く若手! 応援シリーズ 第4回:保健師/
管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ●がんに負けない社会を作るチャリティイベント
リレー・フォー・ライフ2011
●第114回日本小児科学会学術集会が開催
●「集統計の基本と活用方法」で全体討論
第29回全国情報統計研修会
●全国労働衛生週間—10月1日~7日
●お知らせ

テラーメイドの人間ドック 目指して

第52回 日本人間ドック学会学術大会

座長の山門實所長は、冒頭、シンポジウムの狙いについて、「人間ドック学会では、受診者個人に合わせたテラーメイドの人間ドックの確立を目指していきたい。そのため、人間ドックの科学的な評価を行い、国民に有効性を示し、健康増進に役立つことを示すことが必要である。その実現に向け、基本検査項目の選定と共に、一人ひとりの受診者に必要な検査項目と適切な受診間隔を定めることも必要である。本シンポジウムを、その第一歩としたい」と述べた。



個人のリスクや特性を踏まえ 有効な健診で健康増進を図る

近年、医学や医療の進歩により、さまざまな疾患のリスク要因が解明されてきた。そのため、それぞれの受診者の特性やリスクに応じた、テラーメイドの健診が求められてきている。こうした中、8月25、26日の両日、大阪市の大阪国際会議場で開催された第52回日本人間ドック学会学術大会(大会長:大塚道大、大塚道大が宮病院理事長)では、シンポジウム「テラーメイドの人間ドック健診の確立をめざして」予防医学におけるエビデンスの新しい展開(座長:山門實三井記念病院総合健診センター所長 杉森裕樹、大塚道大、大塚道大が宮病院理事長)が企画され、各分野の専門家7人が講演した(写真)。今月はその一部を紹介する。

次に、京都大学大学院医学研究科の中山健夫教授が、エビデンスに基づく人間ドックの在り方について講演を行い、「健診のエビデンスの構築は治療に比べ、検討すべき要素が複合的なため難しい。一方、エビデンスが不十分な状況でも、どのような健診を実施していくかの決断をしなければならぬ」と述べた。

中山教授は、米国立予防医学センター・タスクフォースでは、エビデンスが不十分な状況で適切な決断を行う際には、回避可能と考えられる健康障害や社会などへの負担、

検査で一定の確率で生じる副作用などの避けがたい障害を、コストや死亡数、患者数などの指標で表したものである。WHO(世界保健機関)では、健康統合指標の一つである障害調整生存年を用いて疾病負担を算出している。これにより、地域別・性・年齢別・疾患別、リスク因子別に算出することが可能となり、介入方法の選定やその評価を行うことができる。わが国でもこうした評価が始まったところだ」と述べた。

次に、大阪大学大学院医学系研究科の田倉智之教授が、医療経済から見た人間ドックについて、「臨床経済的な価値は、費用対効果で表現される」と説明し、人間ドックの基本検査項目の医療経済的な価値を評価するために、行っているパイロットスタディの概要について解説した。

ドックを行うためには、エビデンスの構築に加え、こうした点を踏まえて考えていくことが必要」と語った。

続いて講演した北里大学医学部の佐藤敏彦教授は、人間ドックの科学的な評価に必要な概念の一つとして疾病負担をあげ、「疾病負担は、健康障害が地域や社会に与える影響を、コストや死亡数、患者数などの指標で表したものである。WHO(世界保健機関)では、健康統合指標の一つである障害調整生存年を用いて疾病負担を算出している。これにより、地域別・性・年齢別・疾患別、リスク因子別に算出することが可能となり、介入方法の選定やその評価を行うことができる。わが国でもこうした評価が始まったところだ」と述べた。

次に、大阪大学大学院医学系研究科の田倉智之教授が、医療経済から見た人間ドックについて、「臨床経済的な価値は、費用対効果で表現される」と説明し、人間ドックの基本検査項目の医療経済的な価値を評価するために、行っているパイロットスタディの概要について解説した。

田倉教授は、「医療資源の余裕がなくなっている中、人間ドックには健診の有効活用により、生命予後の改善や健康度の維持に伴う医療費の削減などが期待される。そのため、検証、評価が今後欠かせない」と説いた。

また、シンポジウムでは、テラーメイドの人間ドックの将来の展望として、個人の疾病リスクの情報や遺伝子情報に基づき、生活習慣病やがんの早期発見を行うことなども話題にあがった。

個人の疾病リスクの情報を基にしたハイリスク者への健診を行っている日本赤十字社熊本健康管理センターの三原修一副所長は、胃がんのリスク要因である、ヘリコバクターピロリ菌への感染の有無と萎縮性胃炎を血液検査などによって確認し、危険度を判定するABC検査など、同センターで行っているがん検診の取り組みを紹介した。

三原副所長は、人間ドックにおけるがん検診について、「かつて人間ドックのがん検診は、市町村が行う対策型検診と同様の内容であった。しかし、がん検診において、さらに重要なのは、的確かつ徹底した事後管理システムの構築である。精検受診率の向上、精検結果の把握、予後調査など精度管理を行うことが不可欠である」と強調した。

一方、遺伝子情報に基づく検査について講演した杉森裕樹教授は、「近年では、『遺伝子ドック』といった名称で遺伝子検査を行っている施設もある。しかし、中には、臨床的な妥当性や有効性が十分に確立されないまま、商業的に利用されているものもある。遺伝子検査については、エビデンスの構築と共に、利益、不利益の説明、検査後のカウンセリングを含めた結果説明の体制がきちんと提供されなければならない。安易に検査を行った場合には、有害となる可能性すらある」と指摘した。

また、杉森教授は今年2月に日本医学会から「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」が出されたことについても言及し、わが国の動向として紹介した。

今後、日本人間ドック学会では、中長期的なテーマとして「テラーメイドの人間ドック」を取り上げ、議論していく予定である。

また、シンポジウムでは、



か、医学や医療の進歩と共に、新しい健診手法が導入されるようになった。さらに近年では、がん検診の効率化や受診者負担の軽減を図るため、ハイリスク者に絞った健診という考え方も普及してきた。任意型健診の人間ドックであるからこそ、効率的かつ効果的な、個人の特性に合ったがん検診システムを構築することが大切である」と語った。

その上で、三原副所長は「がん検診において、さらに重要なのは、的確かつ徹底した事後管理システムの構築である。精検受診率の向上、精検結果の把握、予後調査など精度管理を行うことが不可欠である」と強調した。

一方、遺伝子情報に基づく検査について講演した杉森裕樹教授は、「近年では、『遺伝子ドック』といった名称で遺伝子検査を行っている施設もある。しかし、中には、臨床的な妥当性や有効性が十分に確立されないまま、商業的に利用されているものもある。遺伝子検査については、エビデンスの構築と共に、利益、不利益の説明、検査後のカウンセリングを含めた結果説明の体制がきちんと提供されなければならない。安易に検査を行った場合には、有害となる可能性すらある」と指摘した。

また、杉森教授は今年2月に日本医学会から「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」が出されたことについても言及し、わが国の動向として紹介した。

今後、日本人間ドック学会では、中長期的なテーマとして「テラーメイドの人間ドック」を取り上げ、議論していく予定である。

個人情報取扱について

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。
担当:江幡良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)
健康相談コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。
Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562
お電話(03-3269-1131)でも承っております。

がんに負けない社会を作るチャリティーイベント

リレー・フォー・ライフ2011

がんを知り、考え、支え合う 命のリレー。24時間ウォーク

がんは、男性の2人に1人、女性の3人に1人が罹患する身近な病気だ。しかし、予防や早期発見、治療や患者支援などに関する正しい知識が十分に行き渡っていないと言われている。こうした中、がんを正しく知り、地域全体でがんに向き合い、支え合う社会を目指したチャリティーイベント、リレー・フォー・ライフ(RFL)が全国各地で開催されている。がん患者やその家族、支援者らが夜通しリレーウォークを行い、がん啓発につなげるRFL。東京・多摩地域では今回初めての開催となった。

9月10日から11日までの2日間わたって、東京・武蔵野市の成蹊大学で、RFL2011吉祥寺(主催:日本対がん協会、RFL吉祥寺実行委員会)が開催された。一昼夜に及ぶリレーウォークは、晴天の下、がん患者やがんを克服したサバイバーによるサバイバーラップで幕を開けた。サバイバーたちは、手形やメッセージの描かれたフラッグを手に、敬意と励ましのこもった声援を受けながら会場を一周。その後、家族や支援者らが合



流し、リレーをつないだ。会場では、リレーウォークと並行して、20代、30代のサバイバーによるパネルトーク(写真上)や、武蔵野赤十字病院の専門医による講演など、がん啓発企画も行われた。日暮れからのルミナリエで

は、闘病中の仲間への激励や故人を偲ぶメッセージ、参加者の決意などを綴った袋にろうそくが灯され、参加者の足下を照らしていた。2日目のフィナーレでは、参加者全員がファイナルラップを歩き、がんに対する思いを分かち合っていた(写真下)。

こうしたRFLは今年も全国約30カ所で開催される。集まった寄付金は、検診受診率向上に向けた啓発や電話相談をはじめとする患者支援など、さまざまななががん活動に当てられることになっている。

全国労働衛生週間

10月1日～7日

わが国では、職場の定期健康診断・有視者者の割合は年々増加し、52.2%に上っていることから、健康結果に基づき健康増進のための適切な対策が求められている。また、仕事に関するストレスを感じる労働者の割合も約60%に達し、メンタルヘルス上の理由で休職や退職する労働者も多いため、職場のメンタル

ヘルス対策への取り組みも重要な課題となっている。こうしたことから、10月1日から7日まで実施された全国労働衛生週間では、「見逃すな、心と体のSOS」をテーマに、

見逃すな、心と体のSOS
みんなてつくる健康職場

第114回日本小児科学会学術集会が開催

東日本大震災の影響で開催が延期されていた第114回日本小児科学会学術集会(会頭:佐地勉、東京大学医学部教授)が、8月12日から14日までの日程で、東京・港区のホテルで開催され、5千人を超える関係者が参加した。

よる異常血管の新生と捉えて、新しい治療を行ったところ予後が向上した」と述べ、併せて川崎病の遺伝的素因に関する研究成果を報告し、参加者に感銘を与えた。

また、日本小児科学会賞を受賞した瀬川小児科センターの瀬川昌也院長は、姿勢シフトが日内変動する遺伝病、いわゆる瀬川病の病因解明の経緯を講演した。

一方、宇宙科学研究所の川口淳一郎教授による、小惑星探査機はやぶさの地球への帰還成功に関する特別講演は、

科学が人類に大きな夢と希望を与えるものであることを、深く認識させた立派な講演であった。

総合シンポジウム「学校医の役割と対策」では、心臓検査、腎臓検査、感染症対策について、鹿児島医療センター小児科の吉永正夫部長、日本医科大学の村上睦美名誉教授、まつおかこどもクリニックの松岡宏副院長が、それぞれ専門医の立場で講演すると共に、日本医師会の石川広巳常任理事が学校医の役割と課題を、また文部科学省の有賀

玲子専門官が学校保健安全法について解説し、「学校医がこれ

を理解しつつ、学級担任や養護教諭と連携しながら、児童生徒の健康保持と増進に努力して欲しい」と述べた。

学校医制度は、児童生徒の健康の保持増進に大きな役割を果たしており、世界に誇れる制度だが、社会の変化に伴いさまざまな問題が生じ、これに対して議論が行われた。

その他、多数の総合シンポジウム、分野別シンポジウム及び教育講演などが行われ、いずれもテーマが優れていてよい学術集会であった。

「集統計の基本と活用方法」で全体討論

第29回 全国情報統計研修会



理担当者、②職域健康成績処理担当者、③施設(人間ドック等)健康成績処理担当者、④地域健康成績処理担当者」の4つのグループに分かれて情報交換や討論が行われた。2日目は、「集統計の基

本と活用方法」をテーマに全体討論が行われ、浜松医科大学の尾島俊之教授(写真)が「受診団体にデータを返すときに必要な集統計の基礎」と題して基調講演を行った。

尾島教授は、まず統計で使用する尺度(データの種類の

や尺度に応じた集計の方法など、集計を行う上での基本的な考え方について解説した。次に、疫学的な視点から、さまざまな研究デザインの特徴やバイアス(偏り)の存在、特に情報バイアスへの対応など、分析上の注意点について説明し、「健康結果の報告に際しては、顧客のニーズや時代の関心を踏まえて、メッセージ性のある仮説を立てて分析を行うことが必要と思われる」と述べた。

その後、尾島教授の基調講演を受けて、兵庫、鹿児島、栃木、神奈川などの支部の事例報告を基に、顧客のニーズに対応した集計表作りや地域・職域診断サービス、事業年報の活用方法などについて意見交換が行われた。

第233回学校保健セミナー
児童生徒に見られる心疾患
突然死の可能性と予防

11月4日(金) 14:16時
東京・新宿区ランドヒル市ヶ谷

第233回学校保健セミナーが11月4日(金)14時から16時まで、東京・新宿区の「ランドヒル市ヶ谷」で開催される。

「児童生徒に見られる心疾患―突然死の可能性と予防」のテーマで、日本大学の鮎澤衛准教授が講演する。

会場は、JR中央・総武線地下鉄各線「市ヶ谷駅」下車徒歩3分のところ。

入場無料。定員250人(当日先着順)。お問い合わせは、本会学校保健課(電話03-3269-1131)まで。

従来のCAVI・ABIに加え、末梢動脈疾患(PAD)診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)

VaSera VS-1500Aシリーズ

医療機器承認番号: 22100BZX00762000

FUKUDA DENSHI

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口 ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00
●医療機器専門メーカー **フクダ電子株式会社**

●TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないVS-1500AE/ANもあります。

●負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。

CAVI ABI TBI